

教材名	第1学年 公平と不公平
主 題	公平とは何か
内容項目	C — (11) 公正, 公平, 社会正義



まずは教材の吟味から始めよう！

1 教材研究

ねらい 公平に接するとはどのようなことかについて考えることを通して、偏ったものの見方や考え方をしないことの大切さを理解し、差別や偏見のない社会を築こうとする態度を養う。

道徳的価値 → 正義と公正さを重んじる 誰に対しても公平に接する

ねらいに迫るための中心発問を考える

「あってよい違い」と「あってはならない違い」を考えるときに、大切なことは何でしょうか？

中心発問に対して予想される生徒の反応を生徒の言葉で3パターン考える

- ①自分だけの基準で判断しないこと。
- ②自分ではよいと思ってやっていたことが、相手にとっては嫌なことであったり迷惑なことであったりすることがあると思う。好き嫌いや損得では判断せず、どちらのことも考えるようにすること。
- ③多くの立場の人から意見を聞いて、それぞれの考え方や感じ方を理解すること。そしてお互いに納得がいくような、気持ちのよい関わり合いをすること。

「自分との関わりで考える」発問や問い返しを考える

発 問 三つの場面はそれぞれ「あってよい違い」と「あってはならない違い」の、どちらだと考えますか？

生徒に考えさせたいこと 自分だったらどのように判断するか、自分が判断する基準はどのようなことか、なぜそう考えたのか、など自分自身を見つめさせたり振り返らせたりすることで、公平や不公平について自分との関わりで考えられるようにする。

「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」発問や問い返しを考える

問い返し (「場面」についての最初の考えが、友達の意見を聞いて変わった生徒に対しての問い返し) なぜ、考えが変わったのですか？

生徒に考えさせたいこと 自分の考えが変化したときに、根拠を問う問い返しをすることで、様々な立場や価値から事例について考えられるようにする。

2 授業プラン

(1) 中心発問の意図

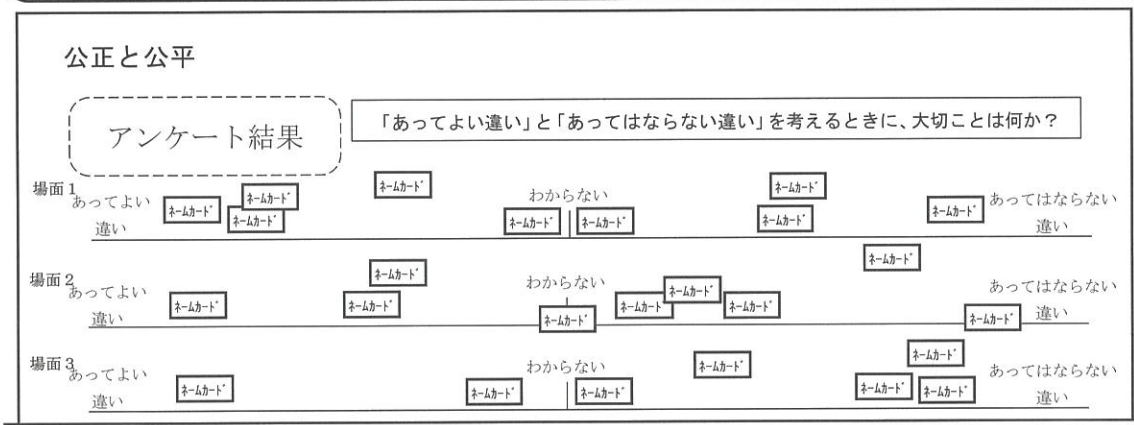
生徒たちは生活の中で、つい不公平だと感じてしまうことがよくある。今回の授業ではどのような場面や状況において、自己中心的な考え方や偏った見方になってしまうのか、誰に対しても分け隔てなく接するために大切なことは何かなどについて考えることができるようにする。そこで、三つの場面について自分の意見と友達の意見を比較する。その後の中心発問では、『「あってよい違い」と『「あってはならない違い』を考えるとときに、大切なことは何でしょうか?』と問うことにした。

(2) 授業展開の意図と展開案

		○基本発問	◎中心発問	□問い返し
導入	不公平と感ずる事例を示して、公平と不公平の判断基準の曖昧さや偏りに気付かせることで、公平、不公平について考えることができるような導入にした。	学習活動		
		1 不公平とは何であるかを考える。 ○給食の配膳される量が人によって違ったら、公平でしょうか?不公平でしょうか? 問題意識をもつ		
展開	三つの場面について、自分だったらどのように判断するか考えることを通して公平や不公平について自分との関わりで考えられるようにした。 また、グループで考えや意見を共有できる時間を設定したり、生徒に考えが変わった根拠を問う問い返しをしたりすることで、公平や不公平について広い視野から多面的・多角的に考えられるようにした。	2 資料から道徳的価値について考える。 ○三つの場面はそれぞれ「あってよい違い」と「あってはならない違い」の、どちらだと考えますか? 自分との関わり		
		場面1 年齢の違いでお年玉の額が違うことについて 場面2 障害があることによる優先入場について 場面3 字が上手だという理由で、班長がCさん一人にまとめをお願いすることについて 友達の発表を聞いて、自分の考えが変わった生徒に対して □なぜ、考えが変わったのですか? 多面的・多角的		
終末	公平か、不公平かで迷った教師の経験について話すことで、さらに考えを深めるようにした。	◎「あってよい違い」と「あってはならない違い」を考えるとときに、大切なことは何でしょうか?		
		3 今日の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 ○今日考えたことを振り返ってみよう。 人間としての生き方		
終末		4 教師の説話を聞く。		

3 授業の実際 I (板書の工夫)

各場面について自分の考えを明確にしたり、友達との考えの違いを比較して考えを広げたり深めたりできるように、板書やネームカードの活用の工夫を工夫した。



板書計画案

T : 字が上手だという理由で、班長がCさん一人にまとめをお願いすること。このことについてどう考えますか？

…板書にネームカードを貼った後…

【あつてもよい違いの意見】

S 1 : もし、Cさん以外の人文字が汚くて読めない場合は、Cさん一人をお願いしてもしかたがない。

【あつてはならない違いの意見】

S 2 : まとめるのはみんなでやることなのに、字が上手だからという理由だけでCさんにまとめをお願いするのはおかしいのではないかな。

【分からないの意見】

S 3 : Cさんも引き受けてくれると言っていたり、みんなもCさんをお願いしたいと言っていたりしたらいいと思うけれど、いいか悪いかは分からない。

T : なるほどね。それぞれにいろいろな考えや意見がありました。改めて考えてみて、ネームカードを貼りかえてください。

…ネームカードを貼り替え後…

T : なぜ、考えが変わったのですか？(根拠を問う問い返し)

【分からない→あつてはならないに変更】

S 4 : みんな話を聞いていると、Cさんが引き受けてくれるかどうか分からないから、一方的をお願いするのはだめだと思いました。



生徒の姿

ネームカードを板書に貼った後に、それぞれの考えや意見を共有したことにより、様々な考えがあることに気付いた様子だった。その後、友達の見解や考えを聞いて自分の意見や考えが変わったらネームカードを貼りかえるように指示したところ、数名の生徒がネームカードを貼りかえた。その生徒に「なぜ、考えが変わったのですか？」と根拠を問う問い返しをすると、自己中心的な考えではなく、「Cさんが引き受けてくれるかどうか分からないから、一方的をお願いするのはだめだと思った」といった相手の立場に立って考えることや相手をお願いをする時に大切なことについて具体的に考えた意見が出された。

4 授業の実際Ⅱ（ワークシートの活用）

板書と同じ様式のワークシートを使用し、場面ごとに自分の考えを整理したり、判断したことを比較したりすることを通して、自分が判断するとき何を大切にしているか考えられるように工夫した。

場面1	自分の考え 女中が未だ別々の金額でお年玉をもらうと、後にケンカ しかかば起きしてしまうから。	あってもよい違い	わからない	あってはならない違い
場面2	自分の考え もし、早い人が長い列の中に並んでいるのを待たせようとか でたら危ないから。	あってもよい違い	わからない	あってはならない違い
場面3	自分の考え せっかく班ならぼんていしめるおれもみんなとて揃かしたほうがいい と、また、字が上手に書けるのが書かなくてもいいからどうしよう と。	あってもよい違い	わからない	あってはならない違い



自分の意見を黒板に貼って他者と比較する

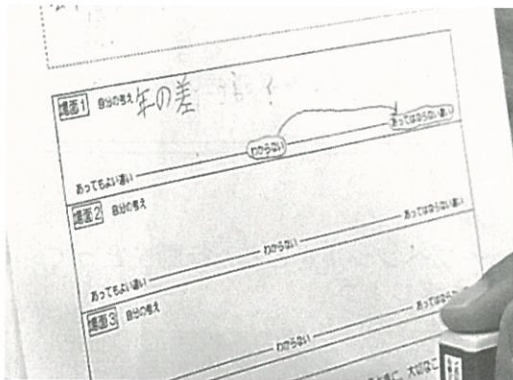
場面1	自分の考え お姉さんも、Aさんと同じとしい頃は、3000円 だったかも知れないから。	あってもよい違い	わからない	あってはならない違い
場面2	自分の考え 車椅子の人は、多くの人と一緒に会場に入るところんだり、 ぶつかったりして、コンサートがまくれたり、けがをする可能性があるので。	あってもよい違い	わからない	あってはならない違い
場面3	自分の考え Cさんが嫌といっているか、「いい」といっているのか この時点では分からないから。	あってもよい違い	わからない	あってはならない違い

車椅子の
人が先に
入ること
でコンサ
ートが
おれなく
人ほい
なとぼ
もつ
ら。



三つの場面での自分の考えの変容を確認する

ワークシート



生徒の姿

それぞれの場面について、友達と様々な考えや意見を共有した時に、自分の考えが揺れ動いたり変化したりした軌跡をワークシートに記すことで、考えの変容を生徒自身で確認することができていた。

5 本時の振り返りの様子

授業の導入では、深く考える様子もなく判断していたが、様々な場面を考える中で、自分と違った意見に出会ったり、同じ意見でも理由が違うことに気付いたりすることで、正しいと思っていた自分の判断に対して迷いを感じているのか、より深く考えている様子が伺えた。

授業の振り返りでは、「人によって判断する基準が違うことが分かった」、「まずは、相手の気持ちなどを考え、周りの人と話をしながら判断することも大切だと思った」、「公平か不公平かを考えるのは難しいなと思った。でも、その人の気持ちになって考えることが大切だと気付いた」などがあり、公正、公平について自分の考えを深めることができた。